

い も と 文 化

ジャガイモと映画 (11)

<粉ふき (2)>

Web ジャガイモ博物館館長 あさま かずお
浅間 和夫

42 『かな哀けものしき獣』

2010年、韓国映画。監督：ナ・ホンジン。

中国、ロシア、北朝鮮に国境を接する延辺朝鮮族自治州の中国側に住むグナム（ハ・ジョンウ）は賭博に手を出す、6万元負けて逃げ場を失う。おまけに、仕事は解雇され、子供を母に預けて韓国に出稼ぎに行った妻からの送金もない。殺人請負人のミョン社長（キム・ユンソク）から韓国へ行ってスンヒョン教授を殺せば借金を帳消しにするとされる。グナムは、この機会を生かし韓国で妻に会うことも考え、その話を受諾する。殺した後証拠の親指を持ち帰るため、釣り船に乗り、韓国ソウル特別市へ密航する。そこで、10日後の船が出るまでに仕事を終える必要がある。

グナムは恰幅のよい教授の居所を探し、包丁もって彼の住む6階に昇ると、二人の男が先に殺害していた現場に遭遇する。ミョン社長の罠にはめられたのだ。

大勢の警察官に追われ、検問ではバスの窓を割り、山に逃げる。警察と黒幕キム・テウォン（チョ・ソンハ）に追われ、無人の建物にたどり着く。そこでダンボール入りジャガイモを確認後、蒸かしたジャガイモを見つける。そして警察の動きをテレビで確認しながらジャガイモを貪り食う（写真1）。映画は殺人・捜索・逃亡の連続で

あるが、金欠でラーメンを食べているとき、いつの間にかソーセージをゲットしたり、屋台のオデンを食べている人からひと串失敬するシーンを入れたりして、見る側の緊張をひと時和らげたりする。加えて途中、黒幕、警察と絡んだナイフと手斧のバイオレンス、視野を狭くして迫力を強調したカーチェースもあり観る人を飽きさせない。



写真1 蒸かしジャガイモを食うグナム（ハ・ジョンウ）

殺人を依頼したのは教授の妻とその浮気相手の銀行員らしい。グナムはしだいに遅くなるものの、傷だらけにもなり、漁師を脅して中国に向かう途中に息絶える。そしてそんな大騒ぎを知らないグナムの妻が中国の駅にボストンバックをさげて静かに降りるシーンで幕となる。

43 『僕の大事なコレクション』

(原題：Everything is Illuminated)

2005年、アメリカ映画。監督：リーヴ・シュライバー。

ジョナサン・サフラン・フォアが2002年に出版した原題の小説を映画化したものであり、ホラー映画「スクリーム」シリーズなどで知られる俳優の初監督となる作品である。

ユダヤ系アメリカ人の青年ジョナサン(イライジャ・ウッド)は、息を引き取る前の祖母から1枚の古い写真と、ユダヤ民族を象徴するペンダントを手渡される。それはジョナサンが幼い頃に亡くなった祖父サフランが、いつかジョナサンに渡してほしいと祖母に託していた物であった。ジョナサンには奇妙な収集癖があり、身近な人々の死後、彼らの身の周りの物を一つ一つジップロックに入れ、壁一面にピンで止めてコレクションにしている。

ジョナサンは、東ヨーロッパのウクライナからの移民であった祖父を現地で助けてくれた女性アウグスチーネと写真を撮った場所を探しにウクライナに向かう。ウクライナに辿り着いたジョナサンを待っていたのは、アメリカかぶれの通訳のアレックス(ユージン・ハッツ)と、目が見えないと言い張るアレックスの祖父(運転手)、それに取っつき難い盲導犬もどきの犬であった。早速ガイド料の大金が欲しい彼ららと、祖父サフランが住んでいた村トラキムブロドを探しに出発する。

最初のレストランではベジタリアンの青年のお望みどおり、彼用の皿には肉無しで煮たままのジャガイモが出されるギャグ的シーンがある(写真2)。おまけに床から

拾ったものの半分を僕の大切なコレクションにしてしまう。



写真2 煮たジャガイモのみの料理

麦畑の多い地方を進んでいくが、ガス欠になり、3人は野宿をする。翌朝祖父がガソリンを調達し再び出発。運よく、ヒマワリ畑の中にある一軒家を見つけ、通訳のアレックスが近づく。住人の老婦人に、サフランとアウグスチーネの写真を見せて「この人達を知りませんか」と尋ねる。老婦人は言う、「ずっと待っていたわ」。彼女が住むこの場所こそトラキムブロドであった(蛇足ながら老婦人の家の入り口付近にもジャガイモが積まれていた)。老婦人に招かれ、家に入った3人は驚く。部屋にはラベル分けしたたくさんの箱が積まれている。それはジョナサンが自室の壁に貼っている数多くの袋と似た光景である。老婦人はサフランを知っていた。彼女こそアウグスチーネの姉だったのだ。

昔ここで1,024人がナチスに銃殺されたと知る。彼女は「戦争はもう終わったの?」と聞くほど世間とは交流なかったようだ。この交流で、過去というものは人々の内にあって、人生に寄り添っていることを感じさせる。老婦人に妹の形見のブローチを渡

し、アメリカへ帰る。アレックスは今回の旅を回想文にする。タイトルは原題の「Everything Is Illuminated（すべては解明された）」。

44 なつぞら

2019年、NHK連続テレビドラマ。制作統括：磯 智明・福岡利武、プロデューサー：村山峻平。脚本：大森寿美男。

1946（昭和21）年初夏、戦争が終わり、戦争孤児の奥原なつは兄妹と別れ、父の戦友柴田剛男に連れられ、北海道東部の十勝にやって来る。剛男の義父・泰樹（草刈正雄）は開拓で入った酪農家。なつは子供ながらに覚悟を決め、牛馬の世話や乳搾り^{ちちしぼ}を懸命に手伝う。なつの頑張りに心を動かされた泰樹は、生きる術をとことん叩き込む。やがて、なつは好きな馬の絵を描く少年・山田天陽（吉沢亮）と出会い、絵を描く仕事に夢を持ち始める。

なつ（広瀬すず）は牧場で働きながら十勝農業高校の畜産科に進学し、仮死状態で生まれた子牛を蘇生させたりして柴田家の一員に成長していく。夏休みとなり、浅草にいるらしい実兄に会うため上京し、漫画映画のスタジオを見学してアニメーターという職業を知る。泰樹は一時なつを十勝に居てもらおうとするが、漫画映画に挑戦したいとするなつを許し、東京で開拓してこいと激励する。

東京では、東洋動画スタジオで長編マンガ映画製作にかかわっていたが、そこを退

社し、坂場一久（中川大志）と結婚して優という子供を授かる。マコプロダクションに移ってからは、自らの半生のような、両親がいなく養子となって北海道の開拓に入り、十勝川の氾濫にあったりするが、家族や周りの人達と助け合いながら開拓者精神を引き継いでいくというアニメをつくる・・・。



写真3 ジャガイモ畑の広瀬すずと吉沢亮

「なつぞら」は大きく分けて北海道と東京のシーンが多い。その北海道では食卓シーンが多く、2週目で早速搾りたての牛乳と粉ふきジャガイモを食べる。11週目では、照男兄がもってきた天陽の畑のジャガイモでつくった粉ふきに、柴田牧場自家製のバターをつけて食べるシーンもある。さらに天陽が麦わら帽子をかぶり、肩から吊った作業ズボンをはいて葉色が少し淡いポテトチップ用品種「トヨシロ」らしきジャガイモ畑に立つシーンなども入っている。